

ふやしてください

御津北部小・4 高崎 瑛斗

「ゲームの時間をふやして。」

とお母さんに言ったら、
「だめ。」

とそく答されました。このやりとりは何回目だろう。

ぼくはゲームが大好きです。特にポケットモンスターやマインクラフト、スマッシュブラザーズが好きです。ぼくがやっていい一日のゲーム時間は二時間までですが、ぼくが一時間と妹が一時間で足した時間です。ぼくはげんじょうに不満があります。もっとたくさんゲームをやりたいのです。できることなら三時間くらいやりたいです。しかしお母さんは、かたくなに、

「ゲームは二時間まで。」

と言います。お母さんにその理由を聞いてみると、ぼくがゲームいぞんじょうになってしまふことを心配しているから、と教えてくれました。ゲームいぞんじょうをインターネットで調べてみると、ゲームがやめられなくなり、すいみや食事の時間をけずってまでゲームをしてしまふそうです。ひどくなるとゲームのことで注意されるといらいらしたり、ぼう言やぼう力をふるったりするようにもなってしまうそうです。それを聞いてぞっとしましたが、その話は本当かなあ、と半信半ぎにもなりました。なぜならいぞんじょうになつたことがないし、周りになつた人も実さいには見たこともないか

らです。また、たんじんの先生は、メディアの使用時間が一時間以上だと、のうの成長が止まってしまつて、成せきが下がってしまうという研究結果がある、と言っています。でもぼくはゲームを毎日一時間以上やっています。成せきは下がるどころか少し上がっているの、ゲームの時間と成せきは関係ないのではないかとまた半信半ぎになりました。しかも、大人は子どもにはメディアの時間を注意するわりには、家、病院、電車の中で見る大人の多くはスマホをいじっています。それにぼくは知っています。お父さんやお母さんは、ぼくと妹がねてから、こっそりテレビやスマホを見ていることを。なので大人たちは、子どもにきびしく自分にはあまいなあ、と思いました。だからゲームやメディアは二時間まで、と言われても説とく力がありません。

ところで、この作文を書くにあたり、ぼくがゲームをたくさんやりたくなってしまう理由を考えてみました。しかし、ぱつとすぐに思いつきませんでした。いつもとても面白いと思つてゲームをしているのに、なぜ好きなのか分かりませんでした。じっくり考えてみると、家にゲーム以外に楽しいおもちゃが無いのかな、と思いましたが、でもよくよく考えみると、大好きなポケモンカード、百人一首やボードゲームがあるし、外で野球やドッジボールをすることも好きです。ただ、これらの遊びには対戦相手の友達や、ボール遊び用の広い場所が必要でした。お父さんとお母さんは仕事や家事でいそがしくて相手をしてくれないし、妹は手加げんしないといけないので面白くありません。ボール遊びきん止の公園もあり、やりたいと思つても気軽にできないので、結局どんどんゲームがやりたくなくなってしまう、と考えました。もつと考えると、学校に行くと友達に、

「ゲームどこまで進んだの。」

と聞かれるので、あるてい度進めておかないと、自分だけおくらせてしまつていやな気持ちになります。さらにゲームを進めるために、パソコンでやり方を調べるので、メディア使用時間もつと必要になつてしまいます。子どもには子どもの事じようがあるのです。

結ろんを出すと、ぼくは大人たちに何と言われようと、ゲームがもつとやりたいです。いちぼんの理想は、大人たちもゲームの面白さを知り、二時間では物足りないと感じて、ゲームの時間をふやしてくれることです。それがかなわなくても、もう一度お母さんと話し合つて、お母さんが一方的にゲームの時間を決めるのではなく、ぼくの意見もしっかりと聞いてもらつて、二人でいっしょに決めたいです。または、そんなにだめだめ言うのなら、お母さんやお父さんがゲーム以外でいっしょに遊んでくれればいいと思います。ぼくとお母さんの二人がなつとくできる着地点が見つかると思います。

「とりあえず、お母さん、あと三十分ゲームの時間をふやしてください。」